

産から学へ

宇都宮大学地域共生研究開発センター

Vol.2

株式会社バンテックインタビュー

日時：平成21年4月23日(木) 11:00~15:00

場所：バンテック・本社

インタビュー対象者：代表取締役 鈴木 和芳 社長

製造部 鈴木 大介 氏

営業部 営業開発マネージャー

間島 真司 氏

インタビュアー：山下CD、荘司CD、佐々木

会社概要

社名	株式会社 バンテック
創業	平成4年8月1日
	昭和23年 鈴木電機個人企業として創立
	平成 4 年 鈴木電機株式会社より独立
資本金	3,000万円
年商	6億4千万円 21年度実績
本社・工場	〒329-2733 栃木県那須塩原市二区町321
代表者	代表取締役 鈴木 和芳
従業員数	33名 (パート別)
URL	http://www.vantec-jp.com 株式会社バンテック メインサイト
	http://natural-energy.co.jp エコシステム部

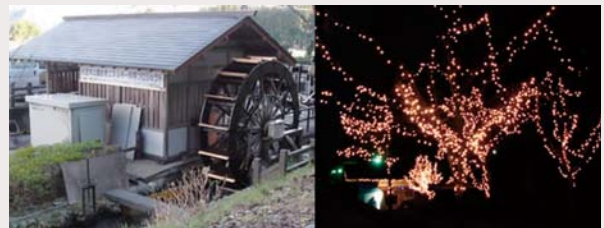
現在、注力されているビジネスを教えてください。

鈴木社長) 水素発生装置と燃料電池です。産業用水素発生装置は、イタリアの水の電気分解装置メーカーと代理店契約を結び、日本の輸入総代理店として販売を始めたところ。現在は、装置の技術習得と同時に自社開発も進めており、これから国内の熱処理や半導体、ガラス関係の工場にオンサイトの水素発生装置をどんどん設置していきます。



左から鈴木社長、鈴木氏、間島氏

鈴木氏) 2004年の冬、日光市の杉並木公園のイルミネーションを点灯させるイベントに参加しました。最低気温-7℃の過酷な環境の中、燃料電池を安定させて稼働させる難しさを肌で感じると共に、水素発生・貯蔵の可能性を実証しました。



燃料電池による
日光杉並木公園イルミネーション点灯

2006年1月には、北海道の稚内新エネルギー研究会のプロジェクトに参加し、大型の燃料電池を納入しました。それは、風力発電と燃料電池を組み合わせた日本初のシステムで、日本屈指の風力発電地域である稚内市の無料休憩所「新エネルギーサテライト」のメイン装置として運転し、この施設の照明への電力(2.24kW)を毎日供給しています。



稚内「新エネルギーサテライト」への燃料電池納入

中核事業である配電盤製造業から燃料電池・水素電解システムに乗り出したきっかけは何ですか？

鈴木社長） 6年ほど前に、取引先の社長さんから燃料電池の取り扱いを提案されたことです。その企業は、電動自転車に搭載する小型インバーターのバッテリーについて研究開発をしていて、中国から燃料電池と水素吸蔵合金を輸入し実験を重ねているところでした。その燃料電池の制御をやらないかという誘いでした。

当時は燃料電池への動きが活発になり始めた時期で、私どもも燃料電池も水素吸蔵合金も全く専門外でしたが、2003年にエコシステム部を設置し、周辺に迫る水素エネルギー社会に向けて研究開発に取り組み始めました。

鈴木氏） 当初は、システムアセンブリー事業として考えていました。しかし、日光、稚内で燃料電池を利用したプロジェクトに参加した際、水素発生装置も燃料電池も、中身を理解していないと手の出しようがないということを身にしみて感じました。特に、燃料電池は生き物のようなところがありまして、環境によって性能が変わることがあります。前日は運転できていたのに、夜間に気温が5℃まで下がったら次の日には全く運転できないとか、有機溶媒を少し吸いこんだら運転できなくなったとか。その経験から自社開発に移行したという経緯があります。

産学連携を上手に活用しているようですが、大学の印象はいかがですか？

鈴木氏） 最初は、何となく敷居が高いという印象がありました。私どもにとっての産学連携への入り口は、宇都宮大学の吉原佐知雄先生との共同研究です。その時は、中小企業診断士の方が間に入りうまく繋げてくださって、抵抗感が無くなりました。現在は、色々な大学の先生とお付き合いがありますし、私自身は社会人博士課程で吉原先生の研究室にお世話になっています。

間島氏） 企業同士では、なかなかお互い腹を割って話せないこともあります。しかし、大学の先生と私どもの技術者とは、立場を気にせずアイデアを出しあえます。中には、歯に衣着せぬ言い方をされる先生がいらして、そのお陰で思い直したり思い返したりすることができますので、非常に良い刺激になっています。今後も、このような繋がりを持ち続けたいですね。

鈴木社長） 水素発生装置・燃料電池というキーワードで、どんどん集まり繋がっています。大学の先生がお客様になったり、逆に支援していただいたりという関係です。



オンサイト型水素発生装置
ハイドロキューブ

製品開発のポリシーについて教えてください。

鈴木社長） ポリシーと言うほどのことは、ありません。ただ、商売をしている中でずっと、自分で値段をつけられる自社ブランドを出したいという思いを持っていました。中小企業というのはどうしてもその日暮らしというか、価格競争に流されてしまいそうなところから始まります。ですから、失敗を恐れることなく日銭を稼ぐ商売から少しずつ技術を磨きあげて、水素発生装置・燃料電池を何とかものにしたいという気持ちがありました。

学生に何かアドバイスをお願いします。

鈴木社長） これから新たに何かを始めようという企業にとって、ガッツのある体育会系の人材は魅力的です。ですから、ぜひ学生さんにはスポーツをして欲しいです。部活動等には、ひとつの社会がありますよね。その社会で学ぶことは多いと思います。特に、そこで培った忍耐力や協調性は、社会に出てからも役立ちますよ。周りを見ることが出来る人は、新しい環境に身を置いた時にも、周りから多くを吸収して成長すると思います。

現在の世の中は、企業にとっては先が見えない、まさに戦国時代とも言える状況に入ってきました。この時代に求められるのは、決められたことをこなすだけではなく、自ら何かを探し出せる前向きな人です。その能力を高めるためにも、スポーツに限らず色々な体験をしてもらいたいと思います。

鈴木氏） 私は社会人ドクターとして大学にいますので、就職に関する相談を受けることがあります。そんな時、企業理念のような基本的なことを理解して挑まないと絶対に受からないよとアドバイスします。最も大切なことは、まずはその企業のことをよく知ることです。

また、企業は、自ら考え動く人材を求めています。私も、研究開発をどう進めるかを考えられる方と一緒に働きたいです。

夢は何ですか。

鈴木社長） 将来的には新エネルギーの分野を狙い、クリーンなエネルギー供給に貢献したいです。水素発生装置・燃料電池の開発を進め、化石燃料に頼らない社会を実現させたいです。

私どもの事業は非常に夢のある事業になりつつあります。夢を持った若い方が入社し、社内を活性化してくれるといいですね。若い人達、頑張ってください。



燃料電池カート

● Vol. 1の電話番号に誤りがございました。お詫びさせていただきますとともに、下記の通り訂正いたします。
誤 TEL 028-689-9316 正 TEL 028-689-6316

宇都宮大学 地域共生研究開発センター 産業交流振興会
宇都宮大学 地域共生研究開発センター 広報室

〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7丁目1番2号
E-mail: chiiki@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

TEL 028-689-6316 / FAX 028-689-6320
URL: <http://www.sangaku.utsunomiya-u.ac.jp/chiiki>